HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」55号
Issue Date	1981-01-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66671
Type	journal
File Information	yuin55.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 55　Jan. 1981

図書館随想

教養分館長　永井義哉

——普通のタイプをひとまわり大きくしたような装置（「端末機」という）に，自分の専攻分野に関連した単語（「キー・ワード」）をいくつか普通のタイプと同じ調子で打つ，するとこの装置と電話回線で結ばれているコンピューター（国際的データーベース）から応答があって，世界中で公刊されている論文のなかでこれらのキー・ワードを含むもののタイトル，著者，収録誌名，発行所が，テレタイプの要領で，即座にカタカタと端末機の紙の上に打ち出されてくる，場合によってはすぐにその論文のコピーを取り寄せることも可能である——こういったいわゆる「オン・ライン情報検索システム」について私が初めて耳にしたのは今年の春のことで，C君の研究室での茶飲み話の際であった。同君は現在自然科学系の某学部の少壮教授であるが，昔私が彼の授業を担当して以来の友人である。これは図書館のあり方にも大きな影響を与えないではいないだろうと思ったのは，たまたま私がその頃教養分館にかかわりを持つようになったからでもあった。このような装置によって必要な文献や資料の所在を確認するてま，ひまが大幅に省けることはたしかであるし，そのような資料の保管と活用がなんといっても図書館の主要な任務であるからである。

実際そうなっていることを私はこの半年の間に何度か見，聞きすることになった。8月に全道各大学の図書館関係者が集まった際には，端末機への漢字の打ち込みのデモンストレーションが行なわれたし，既に実用段階に入っているオン・ラインシステム要員の養成や連絡協議が現実問題として議せられていた。

今後この傾向はますます増大して行くことであろう。論文，報告，統計データー等にとどまらず，やがてこうかんな古典，典籍の類までが個別にデーター化され，この装置を経て確認された資料が同時にコピーされて利用者の手に入る——このための機会と場所を提供するのが図書館の主要な役目となる日がいずれ来るであろう。粘土の板の上に刻まれたものであれ，紙の上に印刷されたものであれ，字をしるしたものを保管しておく所，そして知識を求める者がそこにやって来て敬虔に字を目で追うところとしての古典的な図書館のイメージはうすれて行く一方であろう。

だが図書館の意義ははたしてこれにつきるものであろうか？　私は現在別な意味で図書館を利用することが多い。電話に代表される外部からのさまざまな煩わしさから隔絶された空間というものは，現代の生活ではますます貴重なものになりつつある。急ぎの仕事をもって——

多少の後ろめたさを感じながら——閲覧室の片隅に座ることもあるが，たいていは漫然と書架の間を歩いていたり，ぼんやり椅子に腰を下していることが多い。今後図書館のあり方がどんなに変っても，ここにくるとなんとなく落ちつけるという雰囲気だけは持ち続けてほしいと願うのは，私ひとりのノスタルヂックな感傷であろうか？

◆ 会　議

第102回 図書館委員会

<とき　昭和55年 9 月27日 (土)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 文部省外国雑誌の取扱いについて
2. 閲覧個室 (第1種，第2種) について
3. そ の 他

全学図書 (担当) 掛長会議

<とき　昭和55年 9 月17日 (水)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 文部省外国雑誌の取扱いについて
2. 事務改善検討小委員会の報告について
3. そ の 他

全学図書 (担当) 掛長会議

<とき　昭和55年11月21日 (金)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 1981年版外国雑誌の購入契約について
2. そ の 他

第30回 北海道地区大学図書館協議会総会

<とき　昭和55年8月22日 (金)>
<ところ　函館大学図書館>

標記協議会総会は，当地区19大学40名が出席，慣例により当番館函館大学図書館伊藤結城夫館長が議長に選出され行われた。

協議事項等は次のとおりである。

報告事項

1) 幹事館会議報告
2) 北海道地区所在外国雑誌総合目録会計報告
3) 第23回北海道地区大学図書館職員研究集会報告
4) 各館界 (国・公・私立大学関係) の動向
5) そ の 他

協議事項

1) 地区大学図書館における学術審議会答申への対応について (北海道大学)
2) 北海道地区大学図書館間の相互利用について (北見工業大学)
3) 北海道地区大学図書館の現状と課題 (札幌商科大学)
4) オンライン情報検索の連絡会議開催について (東日本学園大学)

5) 第31回 (昭和56年度) 北海道地区大学図書館協議会総会の当番館について —北海道大学に決定—
6) 第24回 (昭和56年度) 北海道地区大学図書館職員研究集会の当番館について —酪農学園大学に決定—
7) 新規加盟館について —東海大学附属図書館札幌分館の加盟が認められた—
8) 委員会構成メンバーについて

承合事項

1) 各館の相互貸借制度の規定について (札幌医科大学)
2) 各大学図書館における図書予算要求の積算基準と図書予算の要求についての考え方について (札幌商科大学)

以 上

第54次 国立七大学附属図書館協議会

<と き 昭和55年9月25日 (木)・26日 (金)>

<当番館 北海道大学附属図書館>

標記協議会は，文部省から情報図書館課田保橋課長の列席を得，国立七大学の附属図書館長，事務部長及び課長が出席して開催された。

協議題等は次のとおりである。

<協 議 題>

1) 学内における中央図書館の地位強化について (京都大学)
2) 大規模図書分館の分館長の待遇改善をはかることについて (大阪大学)
3) 研究用文献の相互利用について (東京大学)
4) 「学術情報システム」に対応する学内体制について (名古屋大学)
5) 「学術情報システムの在り方」に関連する全学的大学図書行政の対応について (九州大学)
6) 学内における学術審議会答申への対応について —特に附属図書館の立場から— (北海道大学)

以上の協議にもとづいて，学術審議会答申を具現化するために，我が国における学術情報システム形成に中枢的機能・役割を果すべき「学術情報センター」の早期実現と関連大学図書館の基盤整備の促進について，当協議会として関係各省庁へ要望することとした。

なお，第55次 (昭和56年) 同協議会は，東北大学を当番館として開催される。

◆ 学内図書館だより

ブリティシュカウンシル提供による地理学関係図書展示会

さる10月6日 (月) から11日 (土) までの間附属図書館資料展示室において標記展示会が開催された。

これは，今夏東京で開催された国際地理/地図学会の際展示された広範囲にわたる近刊の地理学関係の図書429点で，同学会期間終了後日本各地の大学で専門の方々に見ていただきたいという趣旨により，同学会共催の B.C から依頼されたものであり，期間中多数の教官・学生が訪れ盛会裡に終了した。

資 料 紹 介

学術雑誌の obsolescence
—— SCI/JCR の Journal Half-Life Package にみる ——

山 本 幾 夫

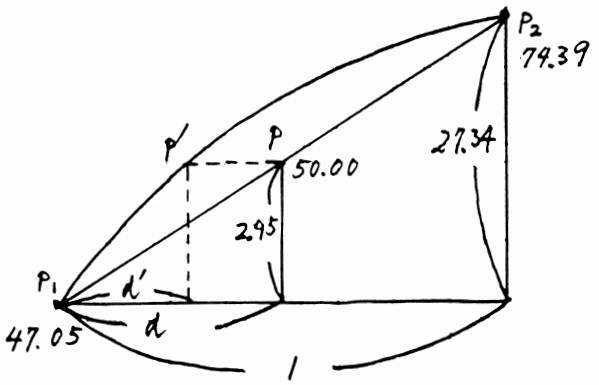
Journal Citation Report (JCR) は索引誌 Science Citation Index (SCI) の年間統計分析とも称すべきもので，その利用法については，本誌 No. 46, p. 443–453 (1977) でふれておいた。標記の Journal Half-Life Package は 1978 年より JCR の新らたな Package として追加されることになったもので，学術雑誌の有用度，特に被引用回数よりみたタイトルごとの有効期間を測定・評価する上で，非常に興味深いデータを提供している。以下，この Package の内容と利用法について説明したい。なお，本稿の大部分は JCR 1978, p. 22 A–25 A (1979) によるものである。

1. Journal Half-Life Package の構成

この Package は，① 1978 Cumulative Chronological Distribution of Citations to Cited Journals, ② 1978 Journals ranked by Half-Life, の 2 つの section より構成されている。① は被引用雑誌ごとに $\frac{\text{被引用論文の刊行年ごとの被引用回数}}{\text{1978 年の被引用総回数}} \times 100$ を計算し，その数値を 1969 年まで年ごとに累積加算したリストである。さらに，このリストから本 Package の重要な概念である，雑誌の利用価値の半減期 (Journal Half-Life；以下，単に Half-Life と省略する) が得られるが，このことについては 2. で説明する。なお，上式の分母と分子の値は，JCR Cited Journal Package を参照することにより得られよう。② は 1978 年の SCI Cited Journal を，その Half-Life の値の小さなものから順にリストしたもので，いわば雑誌の平均寿命の逆順位表ともいえるものである。

2. Half-Life の定義とその算出法

JCR では Half-Life を次のように定義している；ある雑誌のある年 (ここでは 1978 年) の被引用総回数のうち，何年前までの論文でその 50% を越えるかを判定し，その年数をもって，該当誌の Half-Life と定義するのである。つまり，ある年の被引用総回数を N とし，そのうち最近 1 年間の論文が引用された回数を n_1，2 年前の論文が引用された回数を n_2, …… i 年前の論文が引用された回数を n_i とするとき，その雑誌の Half-Life は $\frac{n_1+n_2+\cdots\cdots+n_i}{N} \times 100 \geqq 50$ を満足する i の最小値によって与えられる。次に実例によって Half-Life (実際には整数とは限らない) を計算してみよう。説明が前後するが記入例 1 の上から 12 番目の雑誌 Blood Vessels を見てみよう。この雑誌の 1978 年に引用された総回数の 4.84% が，1978 年中に掲載された論文によるものである。また 1978 年と 1977 年の 2 年間の論文が引用された割合は全体の 17.99% である。(累積されていることに注意のこと。従って 1977 年の論文だけでは 17.99−4.84=13.15% となる。) 同様に 1976 年までの論文で 47.05%，1975 年までの論文で 74.39% を占めているのがわかる。従ってこの雑誌の Half-Life は 1976 年と 1975 年の間，つまり基準となる 1978 年より逆算して 3〜4 の間にあることが理解できよう。このように Half-Life の整数部 I (ここでは 3) は容易に得ることができる。小数部 d は次のように単純な比例関係から計算される；



d: 2.95=1: 27.34

$$d=\frac{2.95}{27.34}=0.1$$

(JCR では小数第2位で四捨五入している)

従って Half-Life=I (整数部)+d (小数部)=3.1 となり，記入例1ではその値が左端のカラムに示されている (事の性質上，線分 p_1p_2 は上向きの孤を描くはずであるから，実際の p は p' に移動し，対応する d' も d の値より小さくなるわけであるが，JCR では d' の近似値として d を採用しているようである)。結論すれば Blood Vessels は3.1年前までの掲載論文だけで，1978年中の被引用総回数の50%をカバーしているということである。

3. 両 section の説明

3.1 1978 Cumulated Chronological Distribution of Citations to Cited Journals

Journal Half-Life Package, Section 1

Specimen

SCI JOURNAL CITATION REPORTS SECTION 1

1978 CUMULATIVE CHRONOLOGICAL DISTRIBUTION OF CITATIONS TO CITED JOURNALS

CUMULATIVE PERCENTAGE OF CITATIONS FROM 1978 JOURNALS TO ARTICLES PUBLISHED DURING YEARS INDICATED

HALF-LIFE	CITED JOURNAL	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1971	1970	1969
5.7	BIOPOLYMERS	3.51	12.06	23.72	34.14	42.92	52.43	60.30	68.08	72.71	79.26
5.1	BIORHEOLOGY	2.32	6.97	19.63	36.94	48.57	62.78	68.98	74.15	79.32	83.46
5.6	BIOSCIENCE	3.44	15.29	23.89	35.37	45.12	52.19	61.94	68.06	79.72	86.04
3.2	BIOSYSTEMS	8.55	33.68	40.64	74.86	91.44	92.51	92.51	92.51	92.51	92.51
4.7	BIOTECHNOL BIOENG	1.80	12.98	26.08	41.53	52.60	62.46	69.97	76.49	81.85	87.72
4.1	BIOTROPICA	0.93	9.34	26.16	45.79	67.28	81.30	83.17	89.71	93.45	95.32
9.8	BIRD BANDING	0.78	5.90	7.47	14.17	22.43	28.34	33.06	38.57	42.90	51.18
9.1	BIRD STUDY	3.21	9.17	22.01	25.68	31.19	38.53	43.11	46.78	49.07	57.34
4.2	BIRTH DEFECTS OAS	1.80	9.31	24.35	47.06	57.39	60.84	70.70	82.84	83.70	92.01
5.9	BLOOD	1.87	11.61	24.27	33.52	41.91	50.38	56.92	62.17	65.87	69.78
2.8	BLOOD CELLS	2.09	18.37	54.85	98.16	98.16	98.42	98.42	98.42	98.42	98.42
3.1	BLOOD VESSELS	4.84	17.99	47.05	74.39	92.73	92.73	92.73	92.73	92.73	92.73
4.4	BLUT	2.33	12.66	33.49	44.16	57.49	66.99	72.66	75.99	80.99	82.33
> 10.0	BOT GAZ	1.58	6.45	10.72	14.99	17.87	20.05	23.33	25.71	28.29	30.78
4.0	BOT J LINN SOC	2.87	14.36	35.05	49.09	60.34	72.98	78.73	83.32	91.37	96.55
> 10.0	BOT MAG TOKYO	2.43	6.68	11.85	16.10	18.84	22.18	24.92	26.74	28.87	34.65
6.4	BOT MAR	3.87	13.54	25.80	32.25	38.06	45.80	54.83	62.57	67.73	68.38
9.1	BOT NOTISER	2.48	12.44	19.08	29.45	32.77	35.68	39.00	44.81	49.37	55.60
> 10.0	BOT REV	0.14	1.29	4.45	17.12	20.86	25.46	30.64	34.52	37.69	41.29
> 10.0	BRAIN	0.41	2.92	7.32	11.61	18.52	23.35	27.82	32.46	38.56	42.46
5.9	BRAIN BEHAV EVOLUT	1.82	4.55	13.35	21.69	33.07	50.83	63.88	70.40	84.21	89.53
3.0	BRAIN LANG	4.02	16.09	48.56	83.04	97.69	97.69	97.69	97.69	97.69	97.70
4.1	BRAIN RES	2.09	14.57	31.97	48.40	63.32	73.12	81.17	87.65	91.39	94.05
2.0	BRAIN RES BULL	9.68	48.44	97.23	97.23	97.23	97.23	97.23	97.23	97.23	97.23
1.9	BRENNST-WARME-KRAFT	5.71	51.42	66.28	70.28	72.57	74.28	75.42	77.71	79.42	80.57
> 10.0	BRIT BIROS	1.27	3.38	11.43	14.40	16.09	18.21	20.33	22.02	24.14	26.27
7.0	BRIT CORROS J	0.00	4.16	14.99	22.49	37.49	38.33	49.16	62.49	68.33	75.83
8.7	BRIT DENT J	3.02	9.75	16.98	25.65	31.70	37.46	42.72	47.50	50.72	55.70
5.6	BRIT HEART J	1.35	9.63	21.26	33.58	44.02	53.33	60.41	66.84	70.62	74.72
6.3	BRIT J ADDICT	1.41	11.86	19.49	29.94	37.85	46.88	56.49	69.76	78.24	82.20
5.9	BRIT J ANAESTH	2.17	10.92	24.08	34.59	41.38	50.83	58.36	65.29	71.66	75.94
> 10.0	BRIT J APPL PHYS	0.00	0.00	0.00	0.11	0.23	0.23	0.35	0.47	0.82	7.83
5.1	BRIT J CANCER	2.21	13.02	24.00	40.14	48.12	60.69	64.04	66.98	69.29	72.27
2.3	BRIT J CLIN PHARMACO	9.62	30.99	66.22	82.71	96.13	96.13	96.13	96.27	96.27	96.28
6.6	BRIT J CLIN PRACT	2.56	9.41	11.11	19.65	28.20	38.03	45.55	61.53	70.93	74.78

記 入 例 1

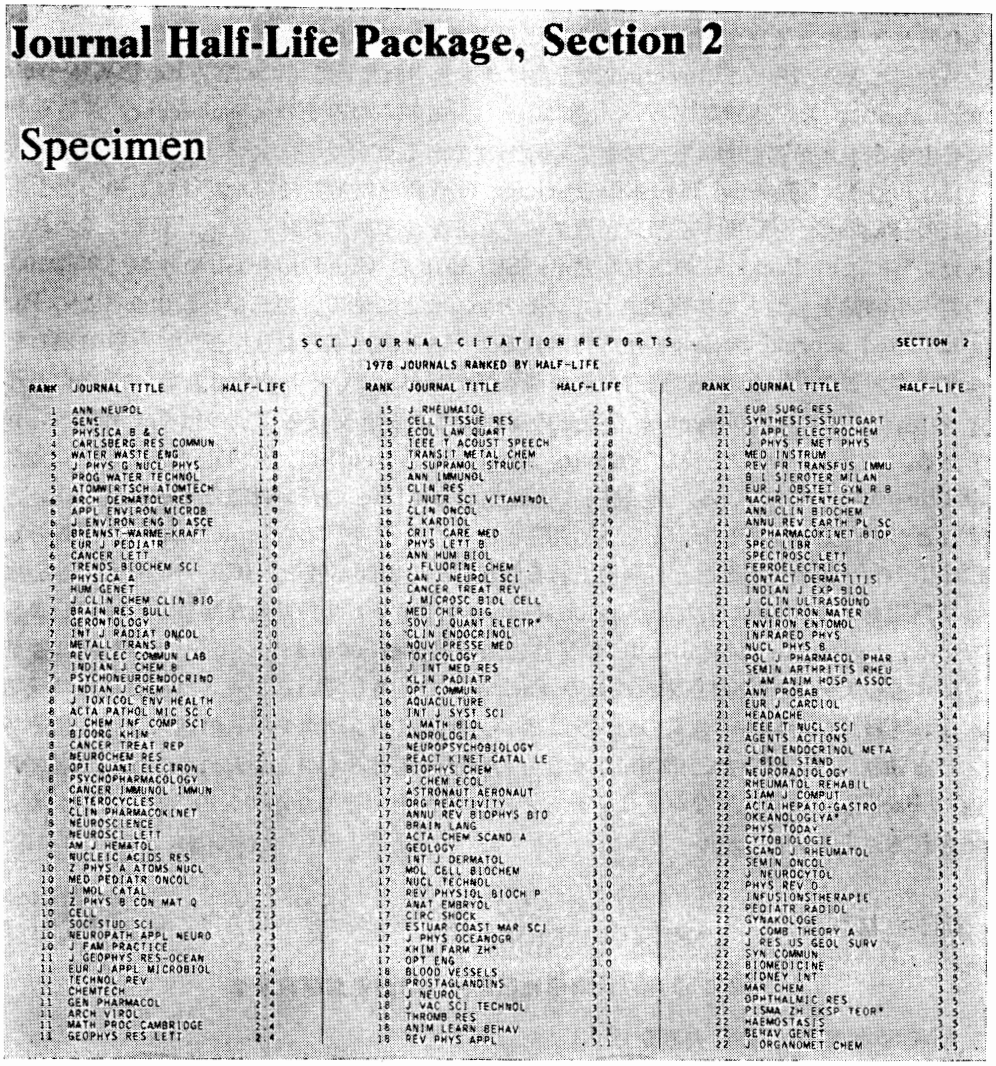
前述したとおり SCI 1978 の Cited Journal について，1978年中の被引用総回数に対して論文掲載年ごとの被引用回数の占める割合を，過去10年に遡り，年ごとに累加したリスト

である。記入例の各カラムは以下のように解釈する；

カラム（左より）	カラム記載内容の説明
1	Half-Life（前述のとおり）の値。ただし値が10.0を越えるものはすべて >10 と記入されている。
2	SCI 1978 の Cited Journal の略誌名。完全誌名は Abbreviated-to-Full Title Dictionary を参照する。なおこの例には見えないが，略誌名にアスターの付されているものは翻訳誌のあるロシア語雑誌であるが，JCR では統計処理上，それぞれ別個のものとして扱われている。
3～12	第2カラムの雑誌に関する $\frac{\sum n_i}{\text{1978年の被引用総回数}} \times 100$（$n_i$；$i$ 年前の掲載論文による被引用回数，$i=1, 10$）のそれぞれの i に対する値である。被引用総回数と n_i の値は Cited Journal Package より得られる。なお右端第12カラムの値が50.0より小さければ第1カラムは >10 と記入されている。

この section は学術雑誌の利用価値の逓減度 (obsolescence) に関する客観的な尺度を提示するものである。例として，もう一度 Blood Vessels を見てみよう。この雑誌は1974年までの論文で1978年における被引用総回数の実に92.73% をカバーしており，それ以前にさかのぼってもカバー率の上昇は全くみられない。従ってこの雑誌 (1964年創刊) の1973年以前のものは，ほとんど利用されないと見做してよいであろう。また下から3番目の雑誌 Brit. J. Cancer は1969年までの論文で被引用総回数の72.27% を占めている。カバー率が若干低いものの，この雑誌が1947年に創刊されていることを考えれば，1968年以前のものは，例えば保存書庫に移動するなどして，書架スペースの有効利用を計ることができるであろう。このように所蔵資料の運用計画を立案する過程で，この section を援用することも可能である。なおこの section には SCI 1978 の Cited Journal のうち，年間100以上の被引用回数をもつ2,170タイトルが収録されている。

3.2 1978 Journals ranked by Half-Life



Journal Half-Life Package, Section 2

Specimen

SCI JOURNAL CITATION REPORTS SECTION 2

1978 JOURNALS RANKED BY HALF-LIFE

RANK	JOURNAL TITLE	HALF-LIFE
1	ANN NEUROL	1.4
2	GENE	1.5
3	PHYSICA B & C	1.6
4	CARLSBERG RES COMMUN	1.7
5	WATER WASTE ENG	1.8
5	J PHYS G NUCL PHYS	1.8
5	PROG WATER TECHNOL	1.8
5	ATOMWIRTSCH ATOMTECH	1.8
6	ARCH DERMATOL RES	1.9
6	APPL ENVIRON MICROB	1.9
6	J ENVIRON ENG D ASCE	1.9
6	BRENNST-WARME-KRAFT	1.9
6	EUR J PEDIATR	1.9
6	CANCER LETT	1.9
6	TRENDS BIOCHEM SCI	1.9
7	PHYSICA A	2.0
7	HUM GENET	2.0
7	J CLIN CHEM CLIN BIO	2.0
7	BRAIN RES BULL	2.0
7	GERONTOLOGY	2.0
7	INT J RADIAT ONCOL	2.0
7	METALL TRANS B	2.0
7	REV ELEC COMMUN LAB	2.0
7	INDIAN J CHEM B	2.0
7	PSYCHONEUROENDOCRINO	2.0
8	INDIAN J CHEM A	2.1
8	J TOXICOL ENV HEALTH	2.1
8	ACTA PATHOL MIC SC C	2.1
8	J CHEM INF COMP SCI	2.1
8	BIOORG KHIM	2.1
8	CANCER TREAT REP	2.1
8	NEUROCHEM RES	2.1
8	OPT QUANT ELECTRON	2.1
8	PSYCHOPHARMACOLOGY	2.1
8	CANCER IMMUNOL IMMUN	2.1
8	METEROCYCLES	2.1
8	CLIN PHARMACOKINET	2.1
9	NEUROSCIENCE	2.1
9	NEUROSCI LETT	2.2
9	AM J HEMATOL	2.2
9	NUCLEIC ACIDS RES	2.2
10	Z PHYS A ATOMS NUCL	2.3
10	MED PEDIATR ONCOL	2.3
10	J MOL CATAL	2.3
10	Z PHYS B CON MAT Q	2.3
10	CELL	2.3
10	SOCF STUD SCI	2.3
10	NEUROPATH APPL NEURO	2.3
10	J FAM PRACTICE	2.3
11	J GEOPHYS RES-OCEAN	2.4
11	EUR J APPL MICROBIOL	2.4
11	TECHNOL REV	2.4
11	CHEMTECH	2.4
11	GEN PHARMACOL	2.4
11	ARCH VIROL	2.4
11	MATH PROC CAMBRIDGE	2.4
11	GEOPHYS RES LETT	2.4
15	J RHEUMATOL	2.8
15	CELL TISSUE RES	2.8
15	ECOL LAW QUART	2.8
15	IEEE T ACOUST SPEECH	2.8
15	TRANSIT METAL CHEM	2.8
15	J SUPRAMOL STRUCT	2.8
15	ANN IMMUNOL	2.8
15	CLIN RES	2.8
15	J NUTR SCI VITAMINOL	2.8
16	CLIN ONCOL	2.9
16	Z KARDIOL	2.9
16	CRIT CARE MED	2.9
16	PHYS LETT B	2.9
16	ANN NUM BIOL	2.9
16	J FLUORINE CHEM	2.9
16	CAN J NEUROL SCI	2.9
16	CANCER TREAT REV	2.9
16	J MICROSC BIOL CELL	2.9
16	MED CHIR DIG	2.9
16	SOV J QUANT ELECTR*	2.9
16	CLIN ENDOCRINOL	2.9
16	NOUV PRESSE MED	2.9
16	TOXICOLOGY	2.9
16	J INT MED RES	2.9
16	KLIN PADIATR	2.9
16	OPT COMMUN	2.9
16	AQUACULTURE	2.9
16	INT J SYST SCI	2.9
16	J MATH BIOL	2.9
16	ANDROLOGIA	2.9
17	NEUROPSYCHOBIOLOGY	3.0
17	REACT KINET CATAL LE	3.0
17	BIOPHYS CHEM	3.0
17	J CHEM ECOL	3.0
17	ASTRONAUT AERONAUT	3.0
17	ORG REACTIVITY	3.0
17	ANNU REV BIOPHYS BIO	3.0
17	BRAIN LANG	3.0
17	ACTA CHEM SCAND A	3.0
17	GEOLOGY	3.0
17	INT J DERMATOL	3.0
17	MOL CELL BIOCHEM	3.0
17	NUCL TECHNOL	3.0
17	REV PHYSIOL BIOCH P	3.0
17	ANAT EMBRYOL	3.0
17	CIRC SHOCK	3.0
17	ESTUAR COAST MAR SCI	3.0
17	J PHYS OCEANOGR	3.0
17	KHIM FARM ZH*	3.0
17	OPT ENG	3.0
18	BLOOD VESSELS	3.1
18	PROSTAGLANDINS	3.1
18	J NEUROL	3.1
18	J VAC SCI TECHNOL	3.1
18	THROMB RES	3.1
18	ANIM LEARN BEHAV	3.1
18	REV PHYS APPL	3.1
21	EUR SURG RES	3.4
21	SYNTHESIS-STUTTGART	3.4
21	J APPL ELECTROCHEM	3.4
21	J PHYS F MET PHYS	3.4
21	MED INSTRUM	3.4
21	REV FR TRANSFUS IMMU	3.4
21	B I SIEROTER MILAN	3.4
21	EUR J OBSTET GYN R B	3.4
21	NACHRICHTENTECH Z	3.4
21	ANN CLIN BIOCHEM	3.4
21	ANNU REV EARTH PL SC	3.4
21	J PHARMACOKINET BIOP	3.4
21	SPEC LITER	3.4
21	SPECTROSC LETT	3.4
21	FERROELECTRICS	3.4
21	CONTACT DERMATITIS	3.4
21	INDIAN J EXP BIOL	3.4
21	J CLIN ULTRASOUND	3.4
21	J ELECTRON MATER	3.4
21	ENVIRON ENTOMOL	3.4
21	INFRARED PHYS	3.4
21	NUCL PHYS B	3.4
21	POL J PHARMACOL PHAR	3.4
21	SEMIN ARTHRITIS RHEU	3.4
21	J AM ANIM HOSP ASSOC	3.4
21	ANN PROBAB	3.4
21	EUR J CARDIOL	3.4
21	HEADACHE	3.4
21	IEEE T NUCL SCI	3.4
22	AGENTS ACTIONS	3.5
22	CLIN ENDOCRINOL META	3.5
22	J BIOL STAND	3.5
22	NEURORADIOLOGY	3.5
22	RHEUMATOL REHABIL	3.5
22	SIAM J COMPUT	3.5
22	ACTA HEPATO-GASTRO	3.5
22	OKEANOLOGIYA*	3.5
22	PHYS TODAY	3.5
22	CYTOBIOLOGIE	3.5
22	SCAND J RHEUMATOL	3.5
22	SEMIN ONCOL	3.5
22	J NEUROCYTOL	3.5
22	PHYS REV D	3.5
22	INFUSIONSTHERAPIE	3.5
22	PEDIATR RADIOL	3.5
22	GYNAKOLOGE	3.5
22	J COMB THEORY A	3.5
22	J RES US GEOL SURV	3.5
22	SYN COMMUN	3.5
22	BIOMEDICINE	3.5
22	KIDNEY INT	3.5
22	MAR CHEM	3.5
22	OPHTHALMIC RES	3.5
22	PISMA ZH EKSP TEOR*	3.5
22	HAEMOSTASIS	3.5
22	BEHAV GENET	3.5
22	J ORGANOMET CHEM	3.5

記 入 例 2

上記の2,170タイトルの雑誌を Half-Life の値の小さなものから順にリストしたものである。記入例の各カラムは以下のように解釈する；

カラム（左より）	カ ラ ム 記 載 内 容 の 説 明
1	Half-Life の値による順位。同値のものは同一順位になっているがその中が誌名順になっていないのは，値が四捨五入によるからである。
2	SCI 1978 の Cited Journal の略誌名。完全誌名の求めかた，略誌名の後のアスターの意味は前述のとおり。
3	Half-Life の値。計算法は前述のとおり。

特定雑誌の Half-Life の順位を調べるには，次のようにする。例えば Blood Vessels の場合，section 1 の第1カラムで Half-Life の値が3.1とわかる。次にこの section の第3カラムの値が3.1になるまで順を追ってゆけば，該当誌が第18位にランクされているのがわかる。当然のことながら，この section で上位にランクされているものには，Review，Letter，Communication など速報誌が多い。逆にいえば，これらの雑誌の obsolescence が短期のうちに発生することが数値的に実証されているわけである。

以上の説明で Journal Half-Life Package の概要を理解していただけたものと思う。最後にこの Package を利用する際，留意すべきことをつけ加えておきたい。第1に，さきにもふれたようにこの Package の収録範囲が，SCI 1978 の Cited Journal のうち，年間100以上の被引用回数をもつものに限定されているということである。再三のべたようにこの Package は Cited Journal Package から得られるデータを，文字どおり機械的に計数処理したものにすぎず，この Package に固有の数値情報源が存在しているわけではない。第2に Half-Life の値，つまり obsolescence の遅速の度合は雑誌の重要度とは別の指標であるということである。事実，多くの主要な Primary Research Journal は，速報誌よりはるかに大きな Half-Life の値をもっている。逆説的にいえば，Half-Life の長い雑誌ほど重要度が高いとみなすことができる。最後に，原理的な問題として，学術雑誌の obsolescence の指数として Half-Life の値を採用することが適当であるかどうかの疑問が残る。JCR では将来，被引用率の累積期間を20年にまで拡大し，obsolescence の問題をより長期的な展望から把握しようとしている。いずれにせよ Half-Life の概念は図書館実務とのかね合いで，より慎重に考察されるべきものである。その意味ではこの Package が提供しているデータは検討材料の域を出ず，なお時の試練を経るべきものといえようが，例えばバックナンバーの購入計画，書庫スペースの有効利用など部分的な応用にはかなりの程度耐え得るものと思われる。SCI 本体，JCR の他の Package と同様，ないしはそれらとの有機的な関連のなかでこの Package が大いに活用されることを期待したい。

（整理課教養分館整理掛長）

◆ 研　修

昭和55年　北海道地区国立大学図書館職員研修

昭和55年標記研修が去る9月10日（水）から12日（金）までの3日間附属図書館教養分館を会場として実施された。

この研修は，道内国立大学図書館職員に対し，その職務遂行に必要な基本的知識および図書館業務に関する最近の知識を付与するとともに，その資質の向上を図ることを目的として行っているもので，本年は，道内各国立大学（高専を含む。）図書館職員28名が受講し，予定どおり修了した。

なお，本研修にあたり，関係者各位のご協力を得たことを感謝するものである。

昭和55年　北海道地区国立大学図書館職員研修日程表

9:00 9:30		11:00	12:00 13:00	14:00	16:00	17:00
第1日目 9月10日(水)	開講式	特別講演 西洋事情私見 北海道大学附属図書館長 塩谷　饒	人事行政上の諸問題 北海道大学庶務部人事課長 砂本宏一	昼食	学術情報システム —その鳥瞰図と虫瞰図— 北海道大学大型計算機センター長 大野公男	当面する諸問題 —学審答申を中心として— 北海道大学附属図書館事務部長 矢部一郎
第2日目 9月11日(木)	図書館資料利用に伴うユーザーからみた情報検索上の諸問題 —研究課題指向の一事例(人文社会系)— 北海道大学法学部 教授　小山　昇		昼食	図書館情報管理とデータベースシステム 筑波大学社会工学系 助教授　池田秀人		
第3日目 9月12日(金)	書誌情報と目録の将来 一橋大学附属図書館事務部長 田邊　廣		昼食	大学における図書館業務の契約 北海道大学経理部主計課課長補佐 小島三司	図書館資料利用に伴うユーザーからみた情報検索上の諸問題 —研究課題指向の一事例(自然系)— 北海道大学応用電気研究所 教授　小山富康	閉講式

昭和55年度　大学図書館職員講習会に参加して

日　程　昭和55年11月4日(火)～7日(金)
会　場　東京大学総合図書館

本講習会は，大学図書館活動を促進するため，大学図書館の中堅職員に図書館業務の最新の知識及び専門的技術を習得させ，その資質の向上を図ることを目的として，昭和39年以降毎年行われてきた。

東京会場である東京大学総合図書館では，国・公・私立大学及び高専の図書系職員96名の参加があり，終始熱心に受講し，予定どおり全日程を終了した。

講習会は，文部省担当官及び大学の先生方を講師として，1) 大学図書館の使命，2) 大学図書館行政，3) 学術情報システムと大学図書館の展望，4) 一次資料の整備（拠点図書館の状況），5) 大型計算機センターにおける情報検索システムの現状，6) MARC利用と図書館業務機械化，7) 全国的所在情報形成の問題，8) 相互協力活動の推進，9) 図書館活動の国際的動向，10) 図書館情報大学のねらい（その教育課程の特質），11) 専門職能論の11講義が行われた。

その主な内容は，学術審議会の答申である「新学術情報システム」に大学図書館がいかに対応していかなければならないか，ということであり，日本を取り巻く諸外国の現況説明，コンピュータを利用した情報検索，目録業務等の機械化，各種情報の体系的，効率的な収集とその共同利用，さらには文部省の大学図書館行政等，様々な立場からの講義であった。

特に講義の中で述べられた個々の大学の枠を超えた全国的観点からの学術雑誌及び図書の体系的，網羅的収集整備，全国的な研究活動支援という大学図書館に課せられた使命感をあらためて認識することができたことは，非常に貴重なものであった。

この「新学術情報システム」における大学図書館の位置付け，役割を十分に理解し，その機能の拡充，強化を図るため我々一人一人がより一層努力する必要があることを痛感した。

(学術情報資料掛 諏訪田義美)

◆ 受贈図書

本学教官著作物

〔本　館〕

○学　長

今村成和　人権叢説〔有斐閣〕

○医学部

平井秀松(共編)　癌胎児性蛋白質 —肝癌をめぐって— 〔南江堂〕

○経済学部

吉田文和　環境と技術の経済学〔青木書店〕

○文学部

塩谷　饒　ドイツ語文法入門〔大学書林〕

田中　彰　明治維新の敗者と勝者(NHKブックス368)〔日本放送出版協会〕

○低温科学研究所

小林禎作　六花の美 —雪の結晶成長とその形— (サイエンス叢書N-12)〔サイエンス社〕

木下誠一　永久凍土〔古今書院〕

◇ 人事往来 ◇

館長事務代理

永井義哉(教養分館長) 55. 7. 2～55. 9. 1 (館長外国出張)

採　用

杉山育子　整理課受入掛 55. 10. 27

配置換

加藤義久　整理課総務掛(農学部経理掛) 55. 11. 1

退　職

卯林とも子　(整理課受入掛) 55. 10. 9

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 (通巻55号)
1981年1月28日 発行　発行人　矢部一郎
編集委員　横山梅雄(長)・若月 修・遠藤雄作・似鳥正吾・野地俊郎・船木敏美・坪田充弘
達 昭二・平田忠夫・杉尾勝茂・宇野弘純・山本幾夫・石倉賢一
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2967)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561